－所蔵作品紹介－

高橋　三加子　TAKAHASHI Mikako

ひとたち Ⅰ

作品データはこちら

旭川出身の高橋三加子は、1960年代から制作活動を始め、1970年、第25回全道展25周年賞を受賞（1972年会員）。その後、安井賞展や行動展（1985年会員）、道内各美術館での企画展などに出品するほか、個展も精力的に行い、北海道の女性画家を代表する存在のひとりとなってきた。

初期の作品から一貫して、高橋は人間というテーマを追求し続けてきた。なかでも、数人から十数人の人物を組み合わせた群像表現においては、人物の独特な表情と緻密な画面構成によって、人間の内面にひそむ本質的な陰の部分を浮き彫りにしている。

ここに描かれた６人の人物は、それぞれが全く別の方向に、虚ろな視線をさまよわせている。彼らは皆、触れ合わんばかりに接近しているにもかかわらず、互いの存在にすら気付いていないように見える。真の意味でのコミュニケーションが断絶し、漠然とした孤独感や不安感にさいなまれる現代人の日常の象徴ともいうべきか。そうした鋭い心理描写に加え、統一感のある色づかい、計算された人物配置、乾いたマティエールなどにみられる造形的確かさと実験精神が、作品をますます魅力あるものにしている。

「北海道立旭川美術館コレクション選集1982-1997」（1998年３月発行）より